

### (3) 環境保全に関する調査研究等の推進

#### ア 環境汚染の防止・自然環境の保全等に関する調査研究

##### ① 資源循環に関する調査研究

- ◆ 産業廃棄物の抑制に係る産官共同研究の推進【総合企画局】  
産業廃棄物の抑制、資源リサイクルに取り組む県内企業と共同研究を行い、企業における産業廃棄物の削減に努めます。
- ◆ 建設廃材のリサイクル技術の開発【総合企画局】  
建築物の解体時に発生するコンクリートや木材の廃材について、有効な資源リサイクル技術を開発し、資源化率の向上を図ります。
- ◆ 食品系廃棄物の有効活用技術の開発【総合企画局】  
ホテルや食品工場の廃棄物を家畜や養殖魚の飼料として活用する技術を開発し、食品系廃棄物の有効活用を図ります。
- ◆ 生物系廃棄物の有効活用技術の開発【総合企画局】  
有機性廃棄物のバイオマスエネルギーへの変換技術や、街路樹等の剪定枝を生ごみ資材や園芸培地として活用する技術を開発し、生物系廃棄物の有効活用を図ります。
- ◆ 植物由来機能材料の実用化のための技術開発【総合企画局】  
植物に含まれる未利用資源リグニンを利用した新しい機能性材料として、住宅用壁板、分解性フィルム、重金属吸着剤を開発し、実用化に取り組みます。
- ◆ 地域中小企業の産業廃棄物の有効活用技術の開発【総合企画局】  
地域の中小企業から排出される産業廃棄物のうち、特に北勢地域に集積する中小企業で課題となる鋳物鉋さいのリユースおよび資源リサイクルを図る技術を開発します。
- ◆ 地域水産資源の有効活用技術の開発【総合企画局】  
真珠養殖で発生するアコヤ貝の貝殻、貝肉等の未利用資源を有効活用するため、貝殻を炭酸カルシウム資材として工業・農業分野等で活用する技術と、貝肉から生理的に有用な物質を抽出する技術を開発します。
- ◆ セメント系廃棄物の資源循環型システム構築に関する技術の開発【総合企画局】  
住宅用外装材の廃材を原料にした水硬性材料を開発し、住宅用外装材の原料として再利用することで、廃棄物の資源循環型システムの構築を目指します。

- ◆ 無機系廃棄物の建材化技術の開発【総合企画局】  
焼却灰等の無機系廃棄物からトバモライト（多孔質のケイ酸カルシウム系素材）を合成し、光触媒作用を付与した機能性建材として有効利用する技術を開発します。

## ② 大気環境保全に関する調査研究

- ◆ 環境大気中浮遊粒子状物質の実態調査研究の実施【総合企画局】  
環境大気中の微小な粒子に含まれる有害物質等について、汚染の状況と原因を把握するための調査研究を行います。
- ◆ 酸性雨等実態調査研究の実施【総合企画局】  
地球環境問題の一つである酸性雨について、現状と動向を把握するため、都市部とその後背地においてモニタリング調査を継続して実施します。

## ③ 水環境保全に関する調査研究

- ◆ 閉鎖性海域の環境創生プロジェクト研究の実施【総合企画局】  
環境汚染が深刻化している閉鎖性海域（英虞湾）における干潟、浅場、藻場などの自然浄化機能について、産学官が共同で研究し、海域の水環境の改善を目指します。
- ◆ 環境中の農薬分析迅速定量法の開発【総合企画局】  
問題発生時において素早い対応を可能とするため、水道法改正に伴い追加規制等される農薬を主な対象として、環境中濃度が高精度かつ迅速に定量できる分析技術を開発します。
- ◆ 排水等の重金属分析迅速定量法の開発【総合企画局】  
問題発生時において素早い対応を可能とするため、廃棄物や排水等に含有される重金属類を対象として、ICP/MS一斉分析による定量の迅速化を行います。
- ◆ 環境保全型農業にかかる生産技術の開発【総合企画局】  
農業における環境負荷軽減のため、自然循環機能を活用した持続的な環境保全型生産技術を開発します。
- ◆ 自発摂餌システムを用いた養殖魚の飼育技術の開発【総合企画局】  
魚類養殖場の環境悪化の要因の一つである残餌を極力減らし、養殖場の環境を保全するため、マハタを対象魚種として自発摂餌システム開発のための試験を行い、実用化に向けた検討を行います。

◆ 内湾の漁場環境調査研究の実施【総合企画局】

伊勢湾や英虞湾の漁場環境把握のため、水質等のモニタリング調査を実施し、情報提供するとともに、伊勢湾における貧酸素水塊形成シミュレーションモデル構築に関する調査研究を行います。

④ 多様な自然環境保全に関する調査研究

◆ 多様な森林の育成技術の開発【総合企画局】

伐採跡地等機能が低下している森林について、森林再生技術の開発を進めるとともに、里山再生のための管理技術を開発し、多様な森林の育成を図ります。

◆ 森林生態系と河川生態系の保全技術の開発【総合企画局】

人工林、天然林など森林環境の違いが生態系にどのような影響を及ぼすかを調査・解析し、生物の多様性を確保するための技術を開発します。

◆ 森林の衰退状況及び炭素吸収量算定の調査研究の実施【総合企画局】

酸性雨等が森林に及ぼす影響を明らかにしていくため、森林の衰退状況等についてモニタリング調査を行うとともに、森林の炭素吸収量算定のための調査研究に取り組みます。

◆ 淡水魚類の多様性保全に関する研究の実施【総合企画局】

県内主要河川における淡水魚類の分布実態を把握するとともに、改修された河川の魚類相復元の可能性や、ブラックバスなどの外来魚が生態系に与える影響を明らかにし、多様な淡水魚類相の保全手法について検討します。

イ 地球規模の環境保全に関する調査研究

◆ 酸性雨等実態調査研究の実施【総合企画局】（再掲）

地球環境問題の一つである酸性雨について、現状と動向を把握するため、都市部とその後背地においてモニタリング調査を継続して実施します。

◆ 森林の衰退状況及び炭素吸収量算定の調査研究の実施【総合企画局】（再掲）

酸性雨等が森林に及ぼす影響を明らかにしていくため、森林の衰退状況等についてモニタリング調査を行うとともに、森林の炭素吸収量算定のための調査研究に取り組みます。

◆ 農業がもつ多面的機能の維持・保全に関する研究の実施【総合企画局】

農地が洪水を防いだり土壌浸食を防ぐなどの国土を守る働きを評価し、減少しつつある農地を効果的に保全するための社会的な手法を検討します。